

2014 年度 第1回トライアル委員会 議事録

【ダイジェスト版】

開催日：2014年6月26日(木) 午前10時00分～午後16時00分

開催場所：MFJ 会議室(東京都中央区築地 3-11-6 築地スクエアビル 10F)

1. 前回議事録の確認

平成 25 年度第 2 回委員会の議事録が提出され、確認・承認された。

2. 全日本選手権途中経過報告

2014 年度全日本トライアル選手権シリーズの第 3 戦までのシリーズ暫定ランキングが提出され、確認された。

- ・ ライセンス人口は、1992 年に比べ減少を続けている。高齢化が進み 2010 年から 40 代が中心となっている。
- ・ トライアルは、前年比微増であるが、ジュニア層が格段に少ない。(ジュニア層は、トップレベルに限られている傾向)
- ・ 50 歳以上が 46% を占めている。
- ・ 新規取得者は少ないが、継続率がよく、定着率がいいと言える。6 月 16 日現在では、96% の継続率。全体では 95%。
- ・ 全日本開催状況は第 3 戦終了時点で、114% 増加。観客数も増加。
- ・ Facebook を活用し始めた為、ニュース情報も寄せてほしい。
- ・ ライディングリミテッドを発行し、各種目後半戦の競技会の観戦情報を掲載。
- ・ 東京 MC ショウで TR アカデミーイントラの野本選手に協力を仰ぎ、TRPR を行った。

3. 組織再編について

MFJ 組織の改編について、MFJ 事務局より説明された。

中央スポーツ委員会でビジョンを策定、確認を行うよう指導的な立場とし、各専門委員会が指導に則り、活動を展開していくよう改編する。

スノーモビル、モタード、エンデューロを部会から委員会へ昇格。

セーフティ委員会を新設し、装備部会(ヘルメット・スーツ)とメディカル部会が連なる。

すべての委員会で一旦解散とし、再編を行う。

5 月の中央スポーツ委員会において、西委員長より、選手会代表は必要不可欠な為、引き続き委員会への出席をお願いしたい。

メーカー担当者の委員就任については、モトクロスでオブザーバー出席している観点からも、委員として活動して頂くよう調整を進めている。

4. ノンストップルール国内導入(案)について

5 月 20 日に開催された作業部会にて検討され、全日本においても FIM で 2016 年以降「ノンストップ」が継続決定されることとなれば、2016 年より日本国内トライアル公認大会において「ノンストップ」を採用するかどうか検討することとなった。

日本国内における全公認競技会へノンストップルールを適用するか次回(11月)会議までに検討することとなった。

5. 国内競技規則変更案について

1) コリドー（セクション待機場所）について

現在セクションイン順番待ち（割込防止）としてセクション入口に車両約 2～3 台程のスペース（白テープ）を設けている。

◆現在の「全日本開催マニュアル」

- ・ エンクロージャー : 黄色 MFJ 立入禁止表示
- ・ 選手・アシスタントの移動コース : 赤色 MFJ 表示
- ・ セクション : 青色 MFJ 表示
- ・ コリドー : 白色 MFJ 立入禁止表示

規則として記述が必要か？

- ・ セクションの一部として規則書に記載するか？
- ・ 割込の場合のペナルティー
- ・ アシスタントの作業制限

等提案が出された結果以下のとおり決定した。

結論

コリドーの設定は、2～3 台並べる程度の範囲で、全戦統一で設置することとし、選手に対してまず順番遵守の啓蒙を行う。この啓蒙が選手に普及されない場合は、規則違反として罰則等を検討することとする。運営マニュアルで設定方法の統一化を図り、さらにセクション査察で確認する等、順番抜き防止を徹底する。

セクション IN とコリドーの間に 5m 程度の間隔を開ける。コリドーは順番抜かしの防止策の為であることから、コリドーは 1 台が通れる程度の狭いものでよい。（ハンドル幅程度）

選手会に順番抜きを行わないよう、啓蒙を図ることとなった。

2) オブザベーションエンクロージャーへの立ち入り制限について

エンクロージャーは、観客への車両接触等の危険防止を目的としているが、アシスタントが多く観客が見づらいこともあり、アシスタントの立ち入り制限を考えたい。メディアについても今年関東大会でハンドルが接触した案件があることから、規則書「全日本特別規則」に追記するか、公式通知に記載するか検討したい。

(例) トライ中ライダーのアシスタント及びコリドー待機の次ライダーアシスタントのみが入ることができる。

◆現状の国内競技規則書記載内容 附則 20 全日本特別規則：249 ページ

3、一般観客用エリアとセクションの間に、オフィシャル、ライダー、アシスタントが立ち入れるエリア（オブザベーションエンクロージャー）を設けることが望ましい。

結論

メディア関係者に対し、競技の弊害となる行為をしないよう、注意事項を受付時に配布する。

3) タイムペナルティについて

タイムペナルティについて、現状の競技運営状況を検証した結果、トライアル競技規則、全日本特別規則のタイムペナルティの見直しを行いたい為以下が提案された。

「トライアル競技規則」：1 1 - 1 - 2 スタート遅れ ~~20分~~ → 10分
を超えた場合失格

「全日本特別規則」

- 1 3 - 1 - 1 : スタート時刻・・・~~20分~~ → 10分以上の遅れは失格
 - 1 3 - 1 - 2 : 第一ラップ・・・~~20分~~ → 10分以上の遅れは失格
 - 1 3 - 1 - 3 : 最終ラップ・・・~~20分~~ → 10分以上の遅れは失格
- ※すべての20分を10分に変更する。

結論

上記提案が承認された。

4) 音量測定について・・・2mMAX方式に移行 or 併用

2014年よりFIM規則で「2mMAX方式」が採用された。国内においても採用するか検討することとなった。

結論

原則として、2mMAXを導入する方向とする。(実際の大会にてテストを行う)
メリットとデメリット双方考えられるが、回転数の測定の必要が無い分、測定側の負担は減少する。
移行期間として併用し、全日本中部大会にて試験的に実施することとなった。

5) 全日本開催日程の再考について

各地域の開催事情により開催が厳しい地域があることから、今後の開催スケジュールを再考していきたい。

理由) 関東地区 世界選手権と全日本の開催が近いため準備が大変である
現在秋口に近い大会が東北地域なため日没時間等のタイスケがきびしい。
TRGCの開催。(2015年候補、中国、近畿、中部地区)

結論

2016年に向け、委員会の開催ガイドラインを設けて早めに調整を始める。
※なお四国の全日本開催も継続して検討して頂く

北海道からの提案

- ① 地方選手権 NB→NA の自動昇格をランキングに絞る
NBクラスの参加台数が少なく、不成立となる大会もあり、ポイント再設定の必要もなくなる為。

結論

昇格ポイントを獲得した後に出場しなくなる選手を考慮し、ポイントかつランキング制の両方を導入した。必ずしも昇格を望む選手だけではない為、ポイント部分の調整で対応して頂くこととし、改訂されたばかりの規則の為、もうしばらく現規則で状況を観察する。

6. 2014 デ・ナシオンについて

開催日 2014年9月12日～14日

開催国 アンドラ公国 会場 St Julia (セントジュリア)

- 1) 男性は選手会より参戦しない意向を頂いた。
- 2) 女性については現在打診確認中。
全国地方選手権成績優秀者に確認中。
候補者現在2名 中部地区、近畿地区
※IB 女性がない為、昨年 GC 大会の成績を参考に NA から選手を選出。
あと1名の選出について引き続き調整を進める。
※小谷選手会長より、近畿地区の候補者2名に意志確認。

結論

エントリーが8月上旬までのため、7月中旬までには確定することとなった。

7. その他について

1、2014年度MFJトライアルアカデミーについて

本年の TR アカデミーの概要が説明された。今年は12月21日のみモビリティランドさんのご協力によりツインリンクもてぎで(1 DAY)開催することが報告された。
また全国各委員に参加者募集協力の要請をした。

開催日程

- 第1回 9月21、22日
- 第2回 10月18、19日
- 第3回 11月15、16日
- 第4回 12月21日 ※ツインリンクもてぎ
- 第5回 2015年1月17、18日
- 第6回 2月1日

その他

アライヘルメット様より、年間参加者に顎ガード付ヘルメットをご協賛頂く。
日本特殊陶業様、河和田屋印刷様から開催支援のご協賛を頂く。
定員：20名。
インストラクター：成田匠校長、野本佳章選手

2、レディースミーティングおよびFIMトレーニングキャンプ報告について(報告)

- 1) レディースミーティング(4月26日 WTC 土曜夕方開催 12名参加)開催されたことが報告された。また今後は毎年開催できよう検討することとなった。
- 2) 世界選手権で開催されたレディーストレーニングキャンプ(報告)
もてぎ世界戦の前日にFIMレディーストレーニングキャンプが開催されたことが報告された。
(日本人選手が5名参加。ジョルディパスケット氏(セクション査察員)が講師)

3、中部大会でOPENトロフィークラスについて

第2戦近畿大会での開催概要をベースとし、中部で開催するが、年齢制限を55歳以上を50歳以上に規定を変え、元国際A級ライダーの対象者枠を広げて募集することとし、承認された。

4、事務局からの連絡事項

① 観客保険料

観客賠償保険料金が逆ザヤとなっており、競技会申請料の不足分をMFJ事務局で負担していたが、負担が追い付かなくなった為、止むを得ず保険申請料を値上げし、結果として競技会申請料が値上げされることが報告された。

② 競技会申請期限

2014年10月から競技会のWEB申請を行う為、申請期限を下記の通り変更する。

前年11月末 世界選手権、国際選手権、MFJGP、国際競技会
 前年12月末 準国際競技会、特別競技会、エリア選手権、地方選手権
 開催日1か月前 その他公認競技会、承認競技会、承認行事

③ 講習会

2015年より、ライセンス取得講習会の申請料は、年間2000円（賠償保険500円+申請1500円）で何度でも開催可能とする。

インストラクターの資格制度の有効活用として、MX(PC・J)、TR(J)、SN(J)、エンジョイライセンス取得資格の権限を持たせる。

④ エンジョイ会員

2015年4月1日より、承認競技会の活性化対策として、エンジョイ会員の金額設定を引き下げる。

	会費	保険区分	保険料	手数料	新料金		現状
エンジョイ会員	1,000	C	1,850	500	3,350	←	5,350
	1,000	A-1	800	500	2,300	←	4,350

※当日発行のライセンスがほしいとの要望も現場ではあるが、保険の兼ね合いで対応不可能。

⑤ 競技会ポイント有効期間

ライセンス期間：4月～3月と競技会期間：1月～3月の違いから、資格確認や作業的な面から各専門委員会で意見を聞くこととなった。現在は、パッケージ申請対応などでフォローされている。ライセンス期間と整合性を併せるのであれば、地方選手権のカレンダーも4月開幕の調整が望ましい。

意見

※トライアルでは1月～3月に日程調整もされる為、現状通りが望ましい。

※新規取得者には、2年分有効のライセンス申請方法が望ましい。

⑥ MFJ管理無線について

無線の免許が10月までとなる為、各加盟団体で省電力無線機の使用に移行して頂くよう要請された。

⑦ マウスガードの推奨

マウスガードが提出され、選手向けに推奨が要望された。

⑧ 顎ガード付のアライヘルメット製ヘルメットが FIM 推奨として認可される予定であることが報告された。

⑨ MFJ オンラインマガジンでトライアル IAS ライダーのプロフィール紹介を行っていることが報告された。

- ⑩ ライディングリミテッドの紹介
6月25日に発行されたMFJフリーペーパー全国会場、販売店で広く配布されることが報告された。
- ⑪ 2013年の全日本東北大会について
昨年の東北大会において、トイレが少ないとの意見が参加者から上がった点について、今年改善が要望された。
- ⑫ 以前要望されたセクション査察員用のビブスについて、現在事務局が手配していることが確認された。
- ⑬ MFJ九州中野委員の意見
将来的な意見として、IA・IBの1DAY開催を土曜にNAやジュニアを開催することで、2日制にできないか？NBとNAの分別が必要か？との案もあり。次回委員会にて提案頂くこととなった。

以上

16時閉会

TR委員会 委員長

西 英樹